

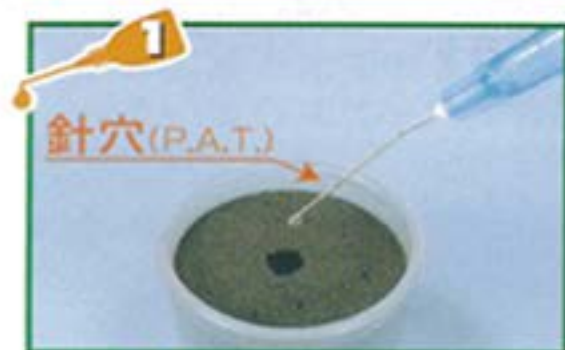
ALL PURPOSE PLASTIC REPAIR KIT

# PLAREPAIR<sup>®</sup> PAT.

プラリペア PAT.

muto Trading inc.

## ◆ニードル法 (基本的な使い方ですので必ずマスターして下さい)



**1** ニードル容器を軽く押さえるとニードル穴から液が出ます。液を粉の上にそのまま落とします。

◎ハリの途中に穴が開いています。

**2** 粉の中にできた玉状の固まりを、ニードルの先で刺し持ち上げ素早く補修部までもって行きます。

**3** 容器を押さえ液を出し、固まりをドロツとさせて補修部に落とします。針先を使って延ばし形を整えます。約5分で硬化します。

### ワンポイントアドバイス

ドロツとさせる為に液を多少多く使っても余分な液は揮発するので接着力には問題ありません。



## ◆ふりかけ法



ニードル法以外にも、直接粉と液を補修部にかける“ふりかけ法”があります。写真のように直接粉をふりかけ液をかける方法です。

## ◆型取くんの使用方法



**1** 熱湯(約90℃)に3分間位漬けて軟化させます。全体が粘土状になればOKです。



**2** やわらかくなったら、ピンセットやお箸等で取り出します。  
(熱湯には十分注意して下さい。)



**3** 手で触れても大丈夫な温度になってから、水気をじゅうぶん切りボール状に丸めます。



**4** 型取くんを、型を取りたい部分に押し当て型取りします。冷えるとゴム状になりできあがりです。

### ワンポイントアドバイス

複雑な部分などでは、ドライヤーを使って型取くんをさらに温める事でよりきれいな型が取れます。





# プラリペア<sup>PAE</sup>が活躍! 使えるポイントアドバイス



- ウインカー
- テールランプ
- カウル&風防
- エアークレーム
- グリル



- フェールリッドカバー
- フェンダー
- メーター廻り
- ヘッドライト廻り
- ツーリングバッグ
- 各種チューニング

※使用にあたっては必ず目立たない部分で接着テストを行ってください。



# バイクカウルの割れ補修



1 大きく割れてしまった部分でも**プラリペア**でしっかり補修が可能です。割れた部分を**V字カット**をして接着補修を行います。



2 裏面から割れ部分の角を削り**V字カット**にする事で確実に強固な接着補修ができます。  
※ヤスリ・カッターナイフ・ルーター等で削る。



3 ニードル法で**V字カット**した部分にドロッとさせた**プラリペア**を素早く流し込みます。  
※セロテープを作業面の裏面に貼り目地止めをします。



4 約**5分**で化学結合! (25℃) **プラリペア**が硬化したらヤスリなどで形を整えできあがりです。  
※完全硬化後に塗装すればより一層きれいな仕上がります。

## ●V字カット

V字カットを行うことで溶着面積が増えます。





その**2**

# 荷重の掛かる部分も しっかり補修再生



**1** 割れてしまった部分は、**V字カット**をして接着補修を行います。



**2** 角を削り**V字カット**にする事で確実な接着補修ができます。

※ヤスリ・カッターナイフ・ルーター等で削る。



**3** ニードル法で**V字カット**した部分にドロッとさせた**プラリペア**を素早く流し込みます。

※セロテープを裏面に貼り目地止めをします。



**4** 約**5分**で化学結合! (25℃) **プラリペア**が硬化したらヤスリなどで形を整えできあがりです。

**博士のワンポイントアドバイス!**

ニードル法で流し込む時には液を**たっぷり**使うのがしつかり直すコツじゃ!

※ABS樹脂・FRP(ポリエステル)製のパーツはしっかり溶着!



# バイクカウルの欠け補修



1 欠けて無くなってしまったカウル止めの凸部分、**型取くん+プラリペア**で簡単に再生します。



2 同じ形の部品からその部分の型を取ります。複雑な部分はドライヤーで温めながら作業をするとうまくできます。



3 **プラリペア**を型の中へ少し多めに流し込みます。



4 無くなってしまった所の同じ位置にしっかり押し当てます。

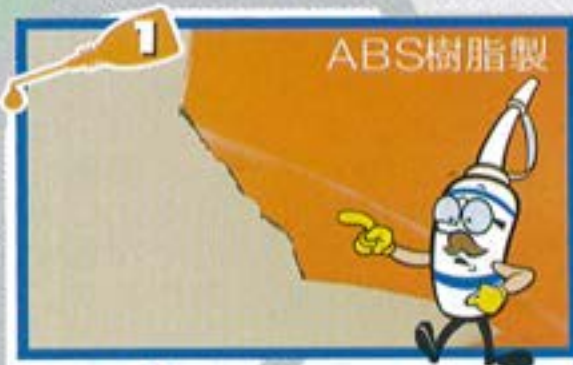
5 約5分程で硬化します。**プラリペア**が硬化したらヤスリなどで形を整えればできあがりです。





その2

# 大きく欠けてしまった部分もしっかり補修再生



1 欠けて無くなったカウル止めの角、**型取くん+プラリペア**で簡単に再生します。



2 表裏の角を少し削り、接着面積を増やす事で確実な再生補修ができます。  
※ヤスリ・カッターナイフ・ルーター等で削る。



3 同じ形の部品からその部分の型を取ります。複雑な部分はドライヤーで温めながら作業をするとうまくできます。



4 **型**を、カケてしまった所に固定し**プラリペア**を中へ十分に流し込みます。



5 **プラリペア**が硬化したらヤスリなどで形を整え塗装で仕上げてください。



# ネジ山の再生補修



**1** プラスチック部品のネジ山が効かなくなってしまうことはよくありますね！**ブラリペア**で簡単素早く再生することができます。ダメになったネジ山をドリルやヤスリで削り穴を少し大きくします。



**2** 使用するネジに軽いオイルを付けます。**ブラリペア**がネジにくっつかないようにするためです。



**3** ネジ山に**ブラリペア**を直接ネジ山が隠れるくらい塗り付けます。



**4** 開けておいたネジ穴部に素早くネジを差し込みます。差し込んだ後軽く2秒程頭を押さえてください。



**5** 1時間程そのまま放置し完全硬化後ドライバーでネジを抜き取ればできあがりです。



# クリアランスランプの欠け補修



1 欠けてなくなってしまった部分は、**型取くん**を使って再生します。

2 上下のカドを削り接着面積を増やしてやります。  
※ヤスリ・カッターナイフ・ルーター等で削る。

3 同じ型の部品からその部分の型をとります。ドライヤーなどで温めながら作業をするとうまくできます。

4 型を、カケてしまった所に固定し**プラリペア**を中へ十分に流し込みます。

5 約**5分**で化学結合!(25℃)**プラリペア**が硬化したらヤスリなどで形を整えてできあがりです。

その2

# 使えなくなったパーツも しっかり補修再生



1 欠けてなくなってしまった凸起部分も、**型取くん**を使って再生します。

2 同じ型の部品からその部分の型をとります。複雑な部分はドライヤーなどで温めながら作業をするとうまくできます。



3 **ブラリペア**を型の中へ少し多めに流し込みます。

※ブラリペアを流し込む時は一度に沢山入れずに少しづつ行ってください。(一度に沢山入れると気泡が発生しやすくなります。)



4 無くなってしまった所の同じ位置にしっかり押し当てる。

5 約5分で化学結合!(25℃) **ブラリペア**が硬化したらヤスリなどではみ出した部分を整えればきあがりです。



# プリンターの折れ補修



1 プリンターやFAX機等のトレイや出張り部分を引っ掛けたりして壊した経験はありませんか？コンピューター周辺機器や家電製品のプラスチックはよくABS樹脂が使われています。そんな時こそプラリペアが力を発揮します。



2 折れてしまった部分を、V字カットをして接着補修を行います。



3 角を削りV字カットにする事で確実な接着補修ができます。

※ヤスリ・カッターナイフ・ルーター等で削る。



4 折れた部分をセロテープで仮止めしニードル法でV字カットした部分にドロツとさせた**フラリペア**を流し込みます。

5 **フラリペア**が硬化したらヤスリなどで形を整えできあがりです。





# パソコン等のヒンジ補修



1 ノートブックタイプのパソコン、落下させたり開け閉めの繰り返しで液晶画面部のヒンジ等が壊れてしまい高額な補修費用がかかってしまう！そんな時にも**ブラリペア**が力を発揮！



2 折れてしまった部分を、**V字カット**をして接着補修を行います。角を削り**V字カット**にする事で確実な接着補修ができます。

※ヤスリ・カッターナイフ・ルーター等で削る。

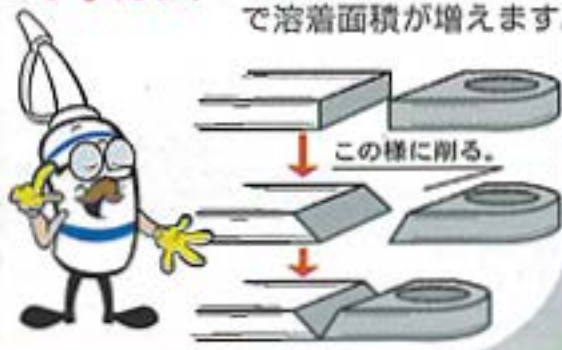


3 折れた部分をセロテープで仮止めし**ニードル法**で**V字カット**した部分にドロッとさせた**スラリペア**を盛り付けます。



4 約**5分**で化学結合！(25℃)**スラリペア**が硬化したらヤスリなどで形を整え元の部分にパーツを取り付けできあがりです。

●**V字カット** V字カットを行うことで溶着面積が増えます。





# ルアーの再生補修



**1** お気に入りのルアーが壊れてしまった！そんな時**ブラリペア**と**型取くん**を使って簡単に直せます。



**2** 折れてしまった部分の角を少し削り**接着面積**を増やす事で**確実な接着補修**ができます。

※ヤスリ・カッターナイフ・ルーター等で削る。



**3** コピーした**型取くん**をルアーの折れた部分に**セロテープ**等で固定します。



**4** **型取くん**に**ブラリペア**をニードル法で流し込みます。そのまま**10分程**置きます。  
※硬化時間は気温や使用量によって変わります。

**5** **ブラリペア**が硬化したら**型取くん**を取り外しできあがりです。



# 陶芸作品の接着補修



1 焼き物や陶芸品の割れや欠け、なかなか補修できないものです。**ブラリペア**は微粒子のパウダーと浸透性の優れた液で陶器等にしみ込みアンカー効果で接着する優れた性能もあります。



2 壊れてしまった部分にパウダーを直接ふりかけます。



3 パウダーの上からタップリヒタヒタになるように液をかます。



4 補修箇所を素早く重ね合わせ動かないようにセロテープ等で固定します。**ブラリペア**が硬化したらできあがりです。

**博士のワンポイントアドバイス!**  
**ブラリペア**の硬化時間を速めるにはドライヤーで温めてやれば硬化時間が速くなるのじゃ!





# ガラスクロスで補強補修



- 1** 荷重の掛かる箇所、大きい面積の補修は通常の接着では不安!  
**プラリペア+ガラスクロス**で強固に補修補強できます。



- 2** 補強の必要な部分の表面の汚れや塗装を粗めのサンドペーパーなどで落とします。



- 3** ポリエチレンシート（一般のポリ袋を小さく切ってお使い下さい。）の上に補強用のガラスクロスが必要なサイズにカットし置きます。



- 4** ガラスクロス全体に薄く隠れるくらい粉をふりかけます。

**博士のワンポイントアドバイス!**  
パウダーはクロス全体にまんべんなくふりかけるのがコツじゃ!



その**2**

## さらに荷重の掛かる部分も しっかり溶着補強補修



**5** 液をポトポトと落とし  
ていき全体が漬かるよう  
に素早くかけていきます。



**6** ポリエチレンシートごと  
手にとって補強部分に湿  
布のように貼付けその上  
から厚みを均等にするた  
めに指で押さえます。



**7** ポリエチレンシートをは  
がせば完了。  
3～6をくり返せばさら  
に強力！



**8** 約**5**分で化学結合！（25℃）**プラリペア**が硬化した  
らヤスリなどで形を整  
えできあがりです。  
もちろん塗装もOK！

### 博士のワンポイントアドバイス！

液はタッブリ完全に粉が  
漬かるようにかけるのが  
コツじゃ！

張付けのときは、あわて  
ずにしっかりエアー抜き  
も忘れずに！





# PP製品もガッチリ補修



**1** PP製のパーツは直接**ブラリペア**では溶着しませんが**ブラリペア**と**ガラスクロス**を併用しアンカー効果でガッチリ固定してしまいます。



**2** 折れてしまった部分を**ヒートリペア**などで固定する事によって更に強力にまた後の作業が楽に行えます。



**3** 折れてしまった部分の両側にドリルで2~3mmの穴を沢山あける。  
※アンカー効果を利用するため。

**博士のワンポイントアドバイス!**

ドリルで開けた穴に前もって**ブラリペア**を入れておけば更に安心じゃ





PP製はブラリペアでは溶着しませんがブラリペアとガラスクロスを併用しアンカー効果で補修可能です。



**4** ポリエチレンシートの上に補強用の**ガラスクロス**を置きます。**ガラスクロス**全体に**粉**をふりかけます。



**5** 液をポトポトと落としていき全体がつかないように素早くかけていきます。



**6** ポリエチレンシートごと手にとって補強部分に貼付け、指で押さえ空気を抜き馴染ませます。  
※**ガラスクロス**はぐるりと一周させる事が必要。



**7** ポリエチレンシートをはがし、余分な部分をヤスリなどで削って仕上げます。  
約**5**分で化学結合!(25℃)

**博士のワンポイントアドバイス!**

**5**の時点で液は少々多くても揮発してしまうので少し多めにするのがポイントじゃ。







# プラリペア<sup>PAL</sup>を上手に使う ワンポイントアドバイス

## ● ニードル(針)の穴がつまってしまったら？

容器からニードルをとりはずして穴の部分を軽くライターなどであぶれば穴のつまりが取れます。

## ● 液が出過ぎてこまる！

冬期又は涼しい所でニードルを使用する場合、余分に液が出てしまい使いにくいことがあります。その場合はニードル容器に液を満タンにしておけば液量をコントロールすることができます。

## ● 玉状の固まりができない！

少しの量が必要な時でも、小分けカップには半分以上パウダーを入れて使用してください。

## ● プラリペアの固まりが上手く落ちない！

補修部に玉状の固まりを落とす時、ドロツとなるように素早く液を加えると作業が上手くまたキレイにできます。

多少液が多めに加わっても自然に揮発しますので問題はありません。

## ● 早く仕上げたい！

プラリペアはドライヤー等で温めると早く硬化します。

※ホームページもご覧ください。

<http://www.plarepair.net/>

# プラリペア<sup>PAT.</sup> を使用する前の準備



- ①. ニードル容器の中栓を外し液をたっぷり入れます。
- ②. ニードル容器に、ニードルを取付けます。
- ③. 紛剤を、カップに小分けします。この時、カップに粉もたっぷり入れておいてください。  
これで、準備はできあがりです。

## ● 使用後の片づけは？

ニードル容器の液はニードルをはずして専用キャップをしっかりと取り付け**冷暗所保存**してください。パウダーはカップのフタを確実にして収納してください。

## ● 接着可能なプラスチックのチェックは？

ウラ面など汚れても問題のない所に少量の液を付けて、少しでも溶ければ接着できます。

## ● 溶着可能なプラスチックは？

- ◆溶着 ・ABS樹脂・AS樹脂・アクリル(PMMA)樹脂
- ・ポリスチレン(PS)樹脂・塩化ビニール(PVC)樹脂
- ・ポリカーボネート(PC)樹脂・ASA樹脂・AES樹脂
- ・ポリエステル(MF)樹脂

## ● 付着可能なプラスチックは？

- ◆付着 ・金属・木材・ガラス・石材・陶器

※・ポリエチレン(PE)・ポリプロピレン(PP)・ナイロン(PA)  
・フッ素樹脂・エンブラ系樹脂は接着しません。

- 危険をとまなう場所には使用しないでください。